

せたがや 町総連だより

第44号

発行 世田谷区町会総連合会

世田谷区若林4-31-9ポライト第2ビル202

☎・FAX 5481-3456

発行人 会長 齋藤重男

編集 情報誌編集委員会

編集委員長 横山昭夫

あけましておめでとうございます

世田谷区町会総連合会 会長 齋藤重男



会員の皆様には輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

日頃から、世田谷区町会総連合会の事業につきまして、格別のご理解とご協力を賜りまして厚くお礼申し上げます。

当総連合会では、2020年に開催されます東京オリンピック・パラリンピックの気運を盛り上げるために今年3月を皮切りに様々な事業を展開して参ります。初回は、オリンピックで活躍した選手等を招いてトークイベントを開きます。当総連合会が主催することにより、町会・自治会が一丸となって東京オリンピック・パラリンピックの気運を盛り上げ、東京大会の成功に取り組んでいることを町会・自治会未加入の区民にも知っていただき、加入促進につなげようとするものです。

現在、当総連合会には、197の町会・自治会が加入し、町会・自治会相互の親睦と協調関係の促進、情報交換や区と町会の連絡調整などを行って

います。また、町会・自治会活動の活性化に向けて、区と協力しながら様々な取り組みを行っています。

ホームページでは、区内の町会・自治会に関して様々な情報を載せています。町総連だよりも創刊号から43号までご覧いただけるようになっていきます。区内の各町会・自治会がどのような活動をしているかご覧いただけますので是非ご参考にしていただければ幸いです。

近頃は、隣近所のつながりが希薄になってきていると言われておりますが、この様な時こそ町会・自治会の果たす役割が益々大きくなってきていると実感しています。

今年も、世田谷区町会総連合会は会員相互で助け合い、親睦を図りながら「安全で安心な住みよい世田谷」を目指して参ります。

結びにこの1年の皆様のご多幸をお祈り申し上げます。

世田谷区長 保坂展人



町会・自治会の皆様には、お健やかに新年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

旧年中は、区政の推進に多大なるご理解、ご協力を賜り、誠にありがとうございました。

昨夏のリオオリンピック・パラリンピックは、世田谷区ゆかりの選手の活躍もあり、強く胸に残る大会でした。東京2020大会まであと3年、私たちは世田谷らしい“おもてなし”で国内外からのお客様を迎えたいと思います。一人ひとりのさりげなく自然な親切でお客様に良い印象を持ち帰っていただければ、双方にとって素晴らしい心のレガシーになるでしょう。町会・自治会の皆様には、そうした雰囲気づくりの中心として、一層ご尽力いただきますようお願い申し上げます。

昨年は熊本地震や鳥取県中部地震、東北・北海

道の豪雨など、自然災害がまたも日本各地を襲いました。世田谷区の交流自治体である熊本市や岩手県岩泉町では、甚大な被害からの復旧・復興に今も大変な苦労を強いられています。区の熊本地震災害支援金募集では、町会・自治会の皆様が率先して街頭に立たれるなど、友情と助け合いの尊さを実感させていただきました。情けは人のためならず、被災地の復興を応援しながら、我が身の災難に思いを巡らせ、地域の皆様と共に防災まちづくりを推進する覚悟を一層強くしております。

結びに、世田谷区町会総連合会の益々のご発展と、会員各位のご健勝を心からお祈り申し上げ、新春のご挨拶とさせていただきます。

■■■■■ 地域情報 ■■■■■

世田谷地域

町会の歩みと課題

若林町会 会長 河野文彦

若林の町は、1丁目から5丁目までの5ブロックから構成されていますが、町会活動は発足当初より一つの町会として活動しております。世帯数約1万1000世帯、人口約1万9000人と大変大きな町会となっております。また、この2年間で約500人の方が新しく住われ、益々活力ある町として発展しております。

なぜ一つの町会として活動し続ける事が出来たのかは、先人の方々が築いてくれたきめ細やかな組織体制と幹部役員が一丸となり各事業に挑む姿勢があつたことだと思います。簡単に組織体制を紹介しますと、8部門と1丁目から5丁目までの各ネットワーク活動にて推進しております。8部門とは組織の基幹部門である総務部（広報部門を含む）・財務部、また町の豊かさを追求している厚生部・文化部・環境保健部と、さらに町の治安を見守っている交通部・防犯部・防災部です。交通部・防犯部・防災部の面々は、世田谷警察署、世田谷消防署との連携を密にし、安心して暮らせる安全な町づくりを目指し活動しております。各丁目のネットワーク活動はより地域に密着した独自の考え、方針でコミュニケーションの強化を図っております。

さて、日本列島はここ数年大規模な自然災害に見舞われ甚大な被害を被っています。東日本大震災の記憶も覚めやらぬ今年に入り熊本地震が発生し、また直近では鳥取地震が発生しております。東京が直下型地震に遭遇する確率は、専門家の諸先生方の見通しとして向こう30年以内に70%と言われております。

若林町会は若林まちづくりセンターを事務局として三軒茶屋町会・社会福祉協議会等と連携し若林地区情報連絡会を平成25年6月に発足し、行政の支援が届くまでの「発災後72時間」、地区住民が共助として取り込むべき課題は何か、何が出来るのか、事前にやるべきことは何か、自助や共助との関係はどのように整理するかなど議論を重ねてきました。その成果として4項目からなる行動計画をまとめました。

- ① 一時集合所の一部での情報提供機能
- ② 集合住宅用防災マニュアルの作成
- ③ 災害時要援護者の安否確認
- ④ 在宅避難のすすめ

この4項目の内、①②④については一定の方向性を定める事が出来ました。③の災害時要援護者の安否確認については協議を重ねてきました結果、今後新体制を組み全体訓練も行う予定です。具体的には安否確認団体として民間の管内介護事業者および障害サービス事業者に参加していただき見守りネットワークを更に充実させたことです。安否確認を行う団体は、町会組織（各丁目ネットワーク）・民生委員児童委員・あんしんすこやかセンターと管内に住所を有する介護サービス事業者等としました。若林まちづくりセンターは、安否確認を行う各団体からの情報をもとに名寄せを行い、もれのない対策を講じる事といたしました。また、防災対策の基本は地域の住民が普通のお付き合いが出来ているかにかかります。それは当たり前ですが出来ているかです。小・中学生の挨拶を問題にする方もいますが学校での指導は徹底した教育を実行していると思います。問題は大人の方々です。家庭での躾と気が付いた時に地域の大人が丁寧に指導することだと思います。今年度より青少年若林地区委員会が行っている「あいさつ運動」を若林地区情報連絡会を構成するすべての団体で取り組むことにしました。幟旗40本を作成し小・中学校、商店街と個人宅等に立て、今後積極的に展開し多くの方が普通に挨拶ができる、住みよい明るいまちづくりに努力したいと思います。



北沢地域

安心して暮せる町に

松沢地区町会連合会 会長 上田 啓子



赤堤小H28. 9. 5訓練 (三角巾で応急救護)

松沢地区は、赤堤1丁目から5丁目、桜上水1丁目から5丁目構成され、小田急線豪徳寺駅から京王線桜上水駅まで広い範囲になっています。

赤堤周辺は低層賃貸マンション、アパートはありますが戸建も多く、一軒が土地を手離すと、数軒の家が建ち、庭木もなくなり、緑が少なくなっています。

桜上水特に4・5丁目は団地も建て替わり、高層マンションも増え、一昨年は桜上水4丁目に、900世帯を抱える集合住宅も建ち上がり、桜上水ガーデنز管理組合法人として、今年度より松沢地区町会連合会に加入、13の町会、自治会、管理組合で組織し、連合しています。

松沢地区北部は文教地域でもあり、区立松沢小学校、松沢中学校、緑丘中学校、都立松原高等学校、日本大学付属櫻丘高校、日本大学文理学部、小学校から大学まで、歩いて10分程の範囲に揃って在ります。登下校時通学路は大勢の生徒さんで賑わい、若い声が飛びかっています。赤堤4丁目に児童館もあり、子育てに良い環境も整っています。

日本大学文理学部と松原高校の学生さんは地域にとけ込み、地区内の祭り、公園の掃除、小学校の行事、中学校の部活の手伝いに参加協力してくださっています。

松原高校は帰宅困難者の受け入れ校として、非常時の行動に備えて学校が生徒を指導しています。日本大学文理学部は第2順位の避難所としての役割を担ってくださる心強い地域です。

首都直下型地震が来るといわれています。また去年は、北は北海道に二度も台風が直撃、大雨による畑の被害は大きく農家の方は相当のダメージを受けました。南は九州熊本で、地震、大雨によるガケくずれ、阿蘇山の噴火の被害、日本中で自

然の力に尊い人命が奪われました。

松沢地区では、小中学校を拠点に避難所運営委員会が本部を中心に役割分担し活発に活動しています。

赤堤小学校は、赤堤1丁目から3丁目より50名の委員とPTA委員も参加し、毎年テーマを決め訓練しています。今年度は地震から数日後を設定、小学5・6年生も一緒に、AEDを使って救急救命、バケツリレー、応急救護やペットを連れての避難訓練等を行いました。

緑丘中学校は、桜上水1・2・5丁目より45名の委員に緑丘中学校の生徒よりボランティア50名程募り、それぞれが役割に入り、準備から片付けまで若い力に助けられています。毎年あんしんすこやかセンターに力を借り、車イスを用意、乗る方も押す側も恐い思いを知り、良い体験になっている様です。

松沢中学校では、赤堤5丁目、桜上水3・4丁目で、居住スペース設営体験、世田谷区災害派遣職員の「熊本地震」の講演、地震による家具転倒防止対策を学びました。

松沢小学校では、赤堤4丁目が学校区隣接の松原地域と共に訓練をしています。

想定外の事はいつ起るかかわからず、鳥取でも地震が起き、熊本でも余震はいまだ続いている様です。

地球温暖化の気候の変化は大きな被害を世界中に起しています。

地震が起ると、火災、家の倒壊等私達には計り知れない事が起るのは確実です。町会・自治会としてD型ポンプ操作、スタンドパイプ放水訓練を年間通して行っています。

「公助」は望めません。

まずは自分の命、家族の安全を確認し、日頃の



緑丘中H27. 11. 21訓練 (車椅子操作)

備えて数日間を乗り切る「自助」、次にお互いを助け合う見守り活動「共助」、向う三軒両隣を大切に「近助」の力を育くむことです。小さな

お子さんから高齢の方まで、地域住民が絆を結び、ずっと住み続けたいと思える町になることを願っております。

町総連ニュース

表彰

▼平成28年10月3日

東京都功労者表彰

甲斐円治郎 監事 (千駄山町会会長)

▼平成28年11月11日

厚生労働大臣表彰

山野井崇二 副会長 (下馬新生自治会会長)

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた気運醸成のためのトークイベント開催

▼日時 平成29年3月11日 午後2時より

場所 玉川区民会館ホール

出演者 泉 麻人・早見 優・中村 礼子

町会・自治会がオリンピック・パラリンピックの成功という区民共通のテーマに取り組むことで町会・自治会のPRを行い、町会・自治会未加入者の加入促進を図ります。

参加費無料です。

◎町総連だより第44号編集委員会の開催

▼平成28年10月5日

町総連だより第44号の編集方針など

▼平成28年11月18日

町総連だより原稿の確認読み合わせ

▼平成28年12月16日

町総連だより原稿の校正

※次号は世田谷地域・砧地域・烏山地域の情報を掲載します。

◎町総連情報誌編集委員会名簿

平成28年11月現在

役職名	氏名	所属町会・自治会名
会長	斎藤重男	玉堤町会
委員長	横山昭夫	九品仏自治会
副委員長	堀江義之	若林町会
副委員長	吉岡靖之	藤自治会
委員	飯塚捷子	豪徳寺二丁目町会
"	遠藤幸一	大原北町会
"	根岸久芳	駒沢三丁目町会
"	大塚栄江	成城団地自治会
"	本橋俊夫	粕谷会

編集後記

震度7が2回の熊本地震、東北・北海道に直接上陸した台風等想定外の天災は人命、財産等に多大な被害をもたらしました。

東京都が平成24年に発表した「東京湾北部地震による被害想定」を受け、世田谷区は「発災後72時間は地区の力で乗り切る」をスローガンに掲げ取り組んでいます。各町会も防災機器の整備、多様な防災訓練、一時避難所の整備確認、避難所運営訓練等、幅広い防災活動を実践し、地区防災力の強化に努めています。

しかし、町会・自治会にも課題があります。一つ目は現在50%前後といわれている「低い加入率」の向上です。各種活動への参加、「いざ」という時の助け合いの必要等を町会便りで呼びかけているが効果はありません。

二つ目は「役員の高齢化」です。若年層の加入を期待してホームページの開設、PTA・おやじの会と連携した行事の実施、商店街の二代目の勧誘等も今一であります。「町総連だよりの回覧化」にわずかな期待も…。

この二つの課題に取り組み、手ごたえを感じている町会・自治会がありましたら、この便りで「ぜひ」ご紹介をお願いします。

編集委員 堀江 義之

世田谷区町会総連合会のホームページ

世田谷区町会

検索

※QRコード



バーコードの一種で、携帯電話で撮影して、簡単にホームページを見ることができます。